



データベースのヘルス モニタリング

- [Cisco UCS Manager データベースのヘルス モニタリング \(1 ページ\)](#)
- [内部バックアップの間隔の変更 \(1 ページ\)](#)
- [ヘルス チェックのトリガー \(2 ページ\)](#)
- [ヘルス チェックの間隔の変更 \(2 ページ\)](#)

Cisco UCS Manager データベースのヘルス モニタリング

Cisco UCS Manager は、ファブリックインターコネク트에保存された SQLite データベースを使用して、設定およびインベントリを保持します。フラッシュと NVRAM ストレージデバイスの両方でデータが破損すると、障害が発生して顧客の設定データが失われる可能性があります。Cisco UCS Manager には、Cisco UCS Manager のデータベースの整合性を向上させるために、複数のプロアクティブなヘルス チェックおよびリカバリ メカニズムが備わっています。これらのメカニズムはデータベースヘルスのアクティブなモニタリングを有効にします。

- **定期的なヘルス チェック**：データベースの整合性を定期的にチェックすることで、あらゆる破損を検知してプロアクティブに回復させることができます。[ヘルス チェックのトリガー \(2 ページ\)](#)、および[ヘルス チェックの間隔の変更 \(2 ページ\)](#) を参照してください。
- **定期的なバックアップ**：システムの定期的な内部 Full State バックアップにより、回復不可能なエラーが発生した場合に、よりスムーズに復旧できます。[内部バックアップの間隔の変更 \(1 ページ\)](#) を参照してください。

内部バックアップの間隔の変更

内部バックアップを実行する間隔を変更できます。バックアップを無効にするには、値を 0 に設定します。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# scope system	システムを入力します。
ステップ 2	UCS-A /system# set mgmt-db-check-policy internal-backup-interval days	整合性バックアップ（日数）を実行する時間間隔を指定します。
ステップ 3	UCS-A /system* # commit-buffer	トランザクションをコミットします。

例

この例では、チェックを実行する時間間隔を2日に変更し、トランザクションをコミットします。

```
UCS-A# scope system
UCS-A /system # set mgmt-db-check-policy health-check-interval 2
UCS-A /system* # commit-buffer
UCS-A /system #
```

ヘルス チェックのトリガー

次のコマンドを使用して、即時のデータベースの完全な整合性チェックをトリガーします。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# scope system	システムを入力します。
ステップ 2	UCS-A /system # start-db-check	ヘルス チェックをトリガーします。
ステップ 3	UCS-A /system # commit-buffer	トランザクションをコミットします。

ヘルス チェックの間隔の変更

整合性チェックを実行する間隔を変更できます。定期的なチェックを完全に無効にするには、値を 0 に設定します。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# scope system	システムを入力します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 2	UCS A/system# set mgmt-db-check-policy health-check-interval <i>hours</i>	整合性チェック（時間）を実行する時間間隔を指定します。
ステップ 3	UCS-A /system* # commit-buffer	トランザクションをコミットします。

例

この例では、チェックを実行する時間間隔を 2 時間に変更し、トランザクションをコミットします。

```
UCS-A# scope system
UCS-A /system # set mgmt-db-check-policy health-check-interval 2
UCS-A /system* # commit-buffer
UCS-A /system #
```

